

高田竹山 たかたけ たけざん 書家、漢字學者、漢詩人。文久元年五月九日江戸生れ、昭和二十一年歿（八六―一九四六）。諱忠周、字七信。別號未共學人、竹山仿古、竹山逸人、高史庸等。明治二年高齋華山の入門、次いで村田直景、島崎醉山の就き漢學を修む。漢魏晉唐の古書法を研究し、また植村蘆洲の文字學、漢詩文を學ぶ。十八年以降印刷局紙幣、八公債證書等の文字書寫を擔當。のうち「古籀篇」三卷を完成して帝國學士院賞受賞。餘技は南畫を能くす。

著書に『説文字原譜』（明治二十六年六月二十五日吉川半七刊）、『漢字系譜』（明治四十一年五月十七日西東書房）、『説文捷要』（明治四十一年一月十七日、再版・昭和九年十月十七日西東書房）、『國定漢字診解』（大正元年十月二日西東書房）、『漢字の起源と支那古代の文化』（昭和二年十一月）日大阪毎日新聞社・東京日日新聞社「毎日叢書」一等等。『學界』の「竹山高田忠周先生」（大正八年九月五日文字俱樂部）の他、「竹山詩鈔」を附載した崑陝小川清浚著『最高書道學原理』（昭和十八年十一月二十日桑花書屋）がある。

